

広西自治区の旅

2007/4/28-5/4

「携帯電話に悩まされるの巻」

2007/4/28 自宅～関空～広州～桂林

4月28日天気は晴れ、10:45 自宅出発 「関空快速」で関空へ、福島駅手前で信号待ちになる。車内放送によると天王寺手前の踏切に人が侵入、環状線全列車が停止、約10分後に動きだした。一時はどうなるかと心配した。関空12:45 到着。GW 初日で相当の人出かと心配したが、午後便であるためか比較的空いていた。いつものCAと違い中国南方航空(CZ) Aカウンターでチェックインする。今日は広州乗継で桂林まで向うがここで桂林までの搭乗券をもらった。その後、ボディチェックを受けた。100ml以上の液体の機内持ち込みが完全に禁止になったため時間が掛かった。念のためレンズクリーナーを別の袋に入れ、無事通過。出国審査は5人待ちで通過、搭乗ゲートへ、ゲート待合は込んでいなかった。14:30 搭乗開始。CZ390/B777は14:50 定刻に離陸。広州まで高度12000m距離2600km速度1000km。



少し揺れながら17:47 まだ明るさが残る広州白雲空港に着陸した。2005年に新空港になり綺麗だがやたら馬鹿でかい造りである。注意

しないと迷子になってしまう。建物は国際線と国内線に別れ、国際線がA区、国内線をB区と呼ぶ、その間を連絡路で繋がれアルファベットのHのような構造になっている。このHが1km、500m、1kmと非常に大きいため乗継時間を2時間は見ておかないと厳しい。



手荷物カウンターにある銀行

入国審査で20人ほど並び、手荷物カウンターで荷物を取り、出口手前に銀行があった(写真)ので「元」に交換することにした。交換レートを見ると何と！1万円が620元！太貴了！去年はたしか700元ほどだったと思う。1万円で80元も安くなっている。5万円交換した。

広州空港までならここで出口に向かうが、今回は桂林への乗継ぎになる。

右手の通路を抜け「乗継カウンター」で搭乗手続きをする。関空でもらった搭乗券を見せ、三脚とキャリーバックを預ける。職員は搭乗券に搭乗ゲートを記入し渡してくれた。

出口を出たところに「旅客指南」カウンターがあったので帰国前泊日 5/3 のホテルを予約しておくことにした。 空港近くのホテルで値段を聞くと 240 元、高いので最も安いホテルを聞くと怡東大酒店 180 元、そこに決めた。前払いで支払い、領収書をもらい国内線棟に行く。

桂林で迎えてくれる今回のガイドに連絡しようとして自分の中国携帯電話を取り出し、1年ぶりに電源を入れる。ハテ・・・？電波がない?! とにかくプリペイドカード「神州行」の期限が切れていたのでは繋がらないのかと思い、国内線に行く途中の渡り通路で「神州行」を買うことにした。

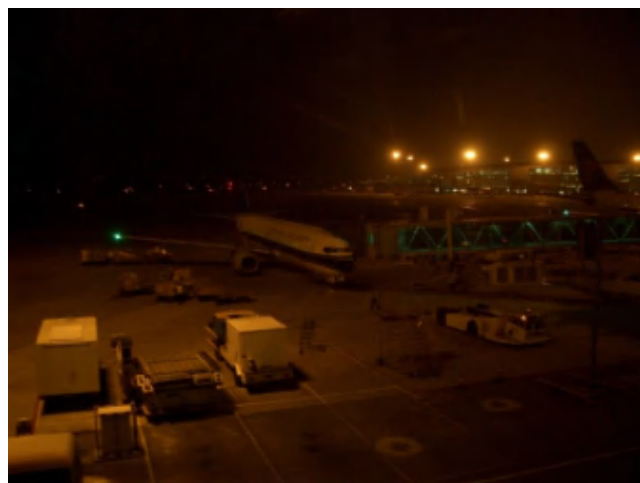
売店で「有没有神州行？」と聞く「有」。電話を見せ、「充值」(通話料金を電話機に入れる)してもらおうことにしたが、電波が繋がらないので不可能なことがわかった。電話の SIM カードを外し、店員の携帯に差換えチェックしてもらったが「没有信号！」電波がない。電話機ではなく SIM カードに問題があることが判った。すると電話局に行かなければ原因が判らない。諦めて国内線ゲートに向う。歩いていると電動カートが寄ってきて私が握りしめていた搭乗券を見て「間に合わないから乗って行け」という、私も初めての空港でどれぐらい距離があるか分からなかったので乗ることにした。値段は 20 元 (300 円) 高い!

300mほどでボディチェックゲートに到着。(シマッタ近かった)搭乗券、パスポートを見せ、カメラバック、ウェストポーチを X 線検査に掛ける。出たところにまた電動カートがあった。先ほどもらった半券を探したが見つからない。本来ならこれにも乗れるはずである。

歩いて搭乗ゲートに向う。「動く歩道」が何箇所もあるが非常に広くて遠い。

やっと桂林行きのゲートに到着。待合客は日本人がたくさんいた。さすがに桂林は国際観光都市である。 搭乗ゲート横に IC 公衆電話が 5 台並んでいたのもこれで連絡を取ることにした。30 元の IC カードを売店で買い、電話を掛けた・・・

なんと!この電話から携帯に掛けられませんだって! ガイドに連絡を取るのを諦めた。チヨット心配だったが仕方なし。



広州白雲空港 B113 ゲートで待機する B737

間もなく搭乗開始、CZ3303/B737 で 20 : 18 離陸、空姐が水とピーナッツを配ってくれたと思ったら桂林空港に定刻 21 : 05 に到着。手荷物を取って出口へ、私の名前を書いた紙をかざしてガイドが待っていてくれた。「一安心」。

建物を出るとなんと「雨」だった。ガイドが手配した軽 1BOX で桂林市内に向う、空港から市内まで 20 km 位あるそう。22 : 00 桂林市内に到着、まず明日の列車の切符を買いに桂林火車站に行く。桂林 04 : 11 発だが桂林はこの列車の途中駅であるため席がない。柳州まで「無座」を、1 枚 29 元、2 枚購入。次に夕食を摂るためレストランに行く。

時間が遅かったのでお粥の有名な店に連れて行ってくれたが、味がなく体にはいいが美味しなかった。そしてホテルへ。翌朝の列車が

04:11 発と早いので駅の真対面にあるホテルに泊まることにした。値段は時間が遅いせいもあり、ツイン標準部屋1部屋 88 元。安い。24:30 就寝。



部屋の窓から見た桂林站

2007/4/29 桂林～柳州～三岔～宜州～羅城

翌深夜 3:30 起床、身支度をすばやく整え、3:45 出発。駅前道路を渡り、桂林站へ。手荷物X線検査を受けエスカレーターで二階候车庁へ 3:55 着。薄暗い待合にはすでに乗客の列ができていた。



普 2513 次 4:05 改札開始。ホームに下りると列車が入線してきた。切符は「無座」で心配だったが、桂林は観光都市、乗客の半分ぐらいが下車し、難なく座ることができた。柳州手前で空が明るくなってきて大きな川、龍江を渡っ

て柳州に 06:37 定刻に到着。

一旦駅を出て、今度は三岔（サンチャ）までの切符を買うことにする。左手にある切符売り場に向かった。朝早のため列は 10 人ほどで難なく切符を GET。何と 1 枚 3.5 元、距離は 54 km もあるのにとても安いのに驚いた。



柳州駅切符売場

普通 7331 次の三岔まで切符を買い、駅前で面を食べ、08:00 に駅 2 階候车庁で待つ。席は硬座であるが指定席になっている。定刻 08:30 柳州を 7331 次は出発。天気は「漸雨」と呼ぶ降ったり止んだりの雨が続けていた。太陽村を出たところに長いレンガ塀があり、蒸機の白煙が見えていた。・・・後日ここに来ることになるとは思わなかった。

列車は山間に入ってしばらくすると右手に龍江が見え二駅目が三岔である。

三岔には少し遅れて 10:10 に到着した。下車後、すぐに駅員に三羅線の状況を聞いた。「昨日と一昨日は運休だったが、今日はあるよ」「ラッキー」そして「もうすぐ列車が来るよ」と云われ、駅前にタクシーを探しに出たがタクシーがあるような町ではなかった。駅前には三輪タクシーも見当たらず、駅の発車を撮るか・・・と考えたが、あの龍江大橋に行くことにした。500m ほど歩くと汽笛が聞こえてきた。

慌てて線路端に三脚をセット、10:53 逆向運転の「建設」が下ってきた。



このころから雨は次第に大粒になり、傘の入ったキャリーバックを駅に置いてきたことを悔やんだ。しかし、折り返しが何時に来るか判らないのでそのまま橋に向かった。

右に曲がる大きなカーブがあってその先が鉄橋というところで発車の汽笛が聞こえ、ダッシュ、11:17 建設は思いのほか早くやってきて三脚をセットする間もなく、デジカメでのスナップになってしまった。



雨は更にひどくなり、踏切番小屋の庇で雨宿りし、小降りになったのを見て駅に戻った。

時間は11:30 本日の列車終了。1日1往復しかないのは撮影条件としてホント厳しい。今日の宿泊先「羅城」に行くことにした。駅員に羅城への道を尋ねるとバスで三岔から宜州まで出て、そこで乗換え羅城に向うのが一番便利だ

そうだ。三岔の街まで三輪を呼べないかお願いし、来てもらった。

バス停までと頼むと、何と先程雨宿りしていた踏切を渡ったところがバス停だった。到着するとすぐ後ろにバスが来ていた。バスは一人8元、13:15 三岔を発車、洛東という町を通り、そこから柳宜高速に乗る。



宜州に入ると新線の建設が急ピッチで行われていた。15:00 宜州汽車站に到着、15分待ちで羅城行きバスがあった。羅城行きバスの切符は1枚13元、トイレを済ませバスに乗り込む。バスは大型バスで快適だ。朝が早かったのとバスが良かったので寝込んでしまって目が覚めると回りは異様な山々が並んでいた。線路が左手に見え、時間的に羅城手前であることがわかった。羅城に着いたのが16:20。羅城は比較的大きな町で中国ではめずらしいくらい道端のゴミは綺麗に片付いた美しい町だった。周囲は桂林同様の石灰岩の奇峰が林立しドンよりと曇った空とあいまってなんとも異様な風景だ。

まず、羅城駅に向うことにした。この街は乗用車のタクシーは見当たらず、三輪タクシーが沢山走っている。站まで一人2元合計4元、羅城火車站に行く、「建設」が見当たらない。駅員に聞くと、もうすぐ戻って来ることが判り、また慌てて、三輪を捕まえ町外れに行った。町外れの踏切で撮影場所を探すうちに16:43「建

設」がやって来てしまいこれまたデジカメだけのスナップ線路端写真になってしまった。

17:12 もう一度站到り、「建設」の入換作業を撮影した。北側の線路を使い、貨物を入換し、そのあと、西側側線でブルドーザーにより石炭を積み込み駅舎正面で停車した。

そこで詳しく駅員と機関士に明日からの予定を聞いた。



羅城駅で休む建設

まず明日 4/30 は 07:30 発車、三岔に向かい、三岔で機関士は「放暇」休暇になるので帰ってこないとのこと、明日は正向運転はナシ！機関車は三岔に 5/3 まで放置し、5/4 運転して帰ってくることが判った。ショック！何とんでも私はもう正向運転が見られない。更に蒸機は今年でなくなるとの事も確認できた。

18:30 まで撮影し、ガイドの友人がこの町に居るとのことで夕食を招待された。

レストランには 6 人が待っていてくれた。合計 8 人で宴会。こちらの酒は「米酒」といって一般的には自宅で醸造するそうだが、日本酒と同じ米が原料である清酒とは違い、少し白く濁っていたが清酒より飲みやすかった。20:30 終了。ホテルに送ってもらった。ホテルは「茂源大酒店」、一泊 139 元。今回泊まったなかで一番良かった。

2007/4/30 羅城～新印～羅城～柳州～太陽村～柳州



民族公園

朝 6:00 起床、外へ出ると雲が垂れ込め奇峰の先が雲に入り見通しが利かない。三輪で站到り、06:30 站に着くと蒸気を上げて今にも発車しそうな勢いで「建設」が停まっていた。「もうすぐ発車する」とのこと。今日からの予定を再確認。昨日と変更ないことが判った。

もう私が帰国するまで三羅線に蒸機は走らない！ 出発前に友人にもらったメールには「もしかしたら黄金週間なので 5/1～5/3 までは運休になる確率が高いよ」と教えられていたが、何とかかなるか甘く考えていたのが失敗だった。

今回の目的の列車がまもなく発車する。急いで三輪タクシーでポイントを探しに出た。三輪に乗りながら奇峰連山をバックに線路を横から撮れるポイントを探したが判らなかった。そのまま 5 km ほど走ると踏切に当たった。線路両側の電線がうるさいが時間も余りないと思ったので踏切端でセットしたのが 06:50、貨物は待てど暮らせど来ず、来たのは 08:03 だった。逆向運転の建設はやっぱり横から撮影しないといけません。失敗！



バック運転で三チャに向かう建設

もう羅城に居ても蒸機は帰ってこない。今回の三羅線撮影は1.5日で終わってしまった。あと3.5日はどうするか・・・

もし、運休だったら・・・というプランを教えてもらっていたのでメールを取出し、読み直してみた。5/1 太陽村セメント工場、5/2 来賓市八一鉄合金廠、5/3 リン川鋼鉄廠、半日早いがこのプランを使わせてもらうことにした。

まず三輪タクシーで羅城汽車站まで行き、柳州に戻り、太陽村セメント工場に行く。



羅城の三輪タクシー

バスに乗る前に「新華書店」で地図を買い位置関係を確認する。10:10 羅城発のバスに乗車、中型バスでクーラーも効いてウトウトしながら柳州へ。六塘から柳宜高速に入った。車窓を眺めていると高速道と平行して新線の建設が行われている。柳州に12:50着、この頃には天気は快晴。30 を超える暑さになっていた。バスは柳州汽車客運南駅という駅に着いた。歩いて表通りに出て、右手に見えたホテルにチェッ

クインした。

ホテルの名前は「延安大酒店」、1泊169元、荷物を置いて昼ご飯を食べにでた。駅まで歩いて10分。少し手前に「米粉」があったのでそこで食事をした。店の名は「三品王」



三品王のセット

次に携帯電話が掛からない原因を調べることにした。タクシーで中国移动通信の営業所に行き話を聞くと、まず何処で買ったかと聞かれたので「北京で買った」というところでは調べられないと言。何と中国的！電話ができないのは非常に不便だ。そこで新しい番号の「神州行」を購入することにした。1枚100円で30元分が番号代、70元が通話料だった。以前北京で買った時は番号だけで100元ほどした記憶があったので安く買えるようになった。すぐに自宅に国際電話を掛けた。が、登録をしないと掛からないというアナウンス。結局、国際電話を諦めた。それでもガイドと繋がるので安心だ。そしてデジカメラを持って太陽村セメント工場に向かった。バスとタクシーを乗継ぎ、太陽村行きバスが出る汽車站に約半時間で到着。



太陽村行きバス

15:45 丁度発車する間際のボロバスに飛乗り、柳州から太陽村まで地道 40 分の道のり、太陽村に着いたのが 16:25。国鉄沿いに線路が敷設されていたが高い塀があり、外からは見えない。線路伝いに入ろうと思ったが、看守が居た。

尋ねると正門に回って許可を取ってくれとのこと。仕方なく正門に回り、不振そうに眺める警備員 2 人に事情を説明、来訪者リストに登記したあと、「工務段」で許可をもらいたいと願い出ると、奥にあるとのこと。どこが工務段か分からず、撮影開始した。



セメント工場正門（右側が守衛所）

中にどんどん入って行くと上游が貨物を推していた。初めは遠慮気味に外側から写していたが、アングルが同じになるので線路に入っていくと奥に更に 1 両上游が確認できた。この 2 両を中心に撮影した。夕方 18:00 前になると 1 両が工務段？前で休憩になったので機関車に乗って撮影させてもらった。非常に親切だ。更

に、ドレインを出してもらおうようお願いし、シルエットで撮影した。

夕方 18:30 まで撮影し、帰りは線路伝いに駅までの 500m を歩き、国鉄「太陽村」18:54 発にのる予定だったが列車が少し遅れ 19:25 発車、柳州行きに乗車し、柳州 19:48 に到着、歩いてホテルに帰った。

2007/5/1 柳州～来賓市～柳州

天気は快晴。この日もさんプラン通り、来賓市にある「八一鉄合金廠」に向うことにした。朝 08:00 ホテルを出発、またもや「三品王」で牛肉面を食べ、柳州火車站からバスで「蓮花汽車客運站」に向かった。来賓市行きはここからバスが出ているようだ。



路線バスで蓮花汽車站に向かった

9:38 蓮花汽車客運站到着。直接八一に行くバスがあり、次は 10:10 発車。高速道路から降りた途端に八一に到着、11:20。場所は、八一小学校前。そこで三輪を拾い、八一鋼鉄廠へ向かった。5 分ほど入口に到着、入口でその三輪の運転手に聞くと車庫が別があり、今頃はそこに停まっているとのこと。鋼鉄廠に入ることなく車庫に向った。話では「鳳凰」の町の中だそう。

行く途中、右手 1 kmに「上游」が確認できたが、三輪のエンジンがうるさくて止めてもらうことなく車庫に向かった。

町の南外れに踏切があり、左手にレンガ車庫があり、ここだというのが、蒸機はなく、踏切番に聞くといつも昼過ぎに戻ってくるとのことだった。線路伝いに国鉄站到歩いて行く事にした。歩くこと 600m、小さな川があった。

鉄橋の通路を渡っている時、ウエストポーチに入れていた「携帯電話」がポーチのファスナーが少し開いていたためポーチから飛び出し、川にポチャリ！ 慌てて築堤を降り、電話を拾い上げたが、万事休す。折角、昨日使えるようになったと思ったのに・・・

橋を渡った先がカーブになっていてその向こうに国鉄線が見える。線路脇に木がありませんまずのポイント。ここで待つことにした。時刻は 12:10.30 をはるかに超える炎天下、熱射病になりそうだったが、とにかくカメラをセットし、国鉄鳳凰站まで下見に行った。しかし、広い駅構内には上游の姿はなかった。



鳳凰駅構内、南昌行き快速が通過

1 時間半ほど待ったが来ない。もう昼ご飯にしようかと片付け出したら遠くで汽笛が聞こえた。再度準備、13:36 お目当ての上游が来た。機関車前面に入換作業者が鎮座し、軽快に走っ

て行った。

急いでカメラを片付け、車庫まで歩いて追いかけた。暑さに参りながら急ぎ足で追いかける。踏切の向こう 100mのところ「車庫」と言われる所があり、実際は車庫かどうかよく判らないが、そのレンガ車庫を抜けたところで貨物を付けたまま上游が停車していた。その傍で乗務員が休憩中。

機関車は約 1 時間ほど停車、写真を撮っていると乗務員が国鉄鳳凰站到るので乗っていかないと親切に勧めてくれるので運転台に乗車させてもらった。

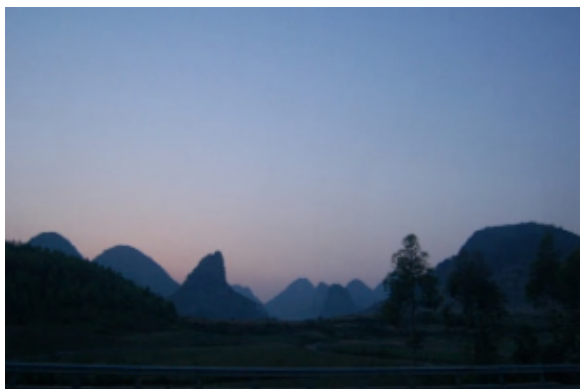


上游運転中の機関士

2 km弱をゆっくりバック運転で站に入り、そこで降ろしてもらった。上游は站北側を使い入換を始めた。約 1 時間余り入換、続いて北側にある鋼鉄廠に向かうのかと思いきや先程の車庫の方に戻って行ってしまった。

この日も炎天下、昼ご飯を食べていなかったものでフラフラである。ガイドが站にある保線小屋の作業員に頼んで食事を作ってもらうこととなり、男 7 人昼を食べ、一気飲みジャンケンをしてると 17:00 を回っていた。礼をいって保線小屋をあとに先程のカーブで戻ってくる上游を待った。しかし、上游は戻ってこず、時間は過ぎ、柳州行き最終バスが 19:00 とのこと

だったので 18:30 で切り上げ、汽車站に向かった。降車所と乗車所が違って先程の踏切から北に 200mほど行ったところにバスが待っていた。駐車場横の売店でアイスクリームと水を買って、柳州へ 18:50 出発、



高速から西に見える奇峰の山々がシルエットで浮かび上がりすばらしい風景だった。柳州は「魚峰山」近くに到着。そこから三輪タクシーでホテルに帰った。

2007/5/2 柳州～桂林～リン川

5/2 は桂林の北にあるリン川鋼鉄廠に行くことにした。

延安大酒店ホテルを 08:00 出発。桂林行きバスをホテル隣の汽車站で聞くとここからは午後には 1 便あるだけ、他にどこから出ているかと聞くと汽車站だそう。でそちらに向かった。通常 1 時間 1 便とのことだが「五一」休暇のため 09:00 発はすでに満席、増発の 09:15 の席が空いていたのでそれを予約、柳州～桂林 1 人 47 元。朝食を食べ待合室で待った。09:20 乗車。09:35 発車、このバスは韓国大宇社製のとても新しいバスで席間は広いし、液晶 TV が通路に 3 台もあり、更に鉱泉水 1 本のおまけも付いている。あまり乗ってないが中国で乗ったバスで最もいいバスだった。



高速を使い快適に桂林に 11:55 到着。桂林は桂林汽車站に到着。まずホテルを探した。近くあったホテルで値段を聞くと汚いホテルが何と 360 元、ビックリ！ もう一軒聞いてみると満員、更にもう一軒聞いたところ 320 元、高い。「五一」で観光客がどっと桂林に来るためどこかしこ値段は平常の 3 倍。日本でも同じ傾向だが、中国は更に顕著である。旅行業としては当たり前かも知れないが、利用者は大変困る。桂林での宿泊を諦め、リン（ヨの下に火）川にタクシーで向かった。50 元で交渉成立、40 分ほどでリン川の鋼鉄廠に到着。



正門で交渉したが入ることは叶わず。「国鉄と鋼鉄廠を結ぶ線路で撮影してください。但し、蒸機は 1 ヶ月前に火を落とし、今はディーゼル機関車になっているよ。」とのこと、とにかく暑いので昼食とホテル探しにリン川市街に戻った。チャーハンを食べホテル探しに出かけた。ここも桂林に近いので 4 件ホテルを聞きまわったが

3倍価格。汚ったないホテルが200~300、トイレが共同だったり、シャワーしかなかったり・・・最後のリン南賓館が240元。ここに泊まることに決めた。

外は暑いので15:00までホテルで休憩し、再度鋼鉄廠へ。鋼鉄廠から出た所の切通しから上游が見えた。線路に降り、入口の詰所で話しを聞くと同じく1ヶ月前にディーゼルに変わったとのこと。

屋根の下に2両の上游が保管されいつでも復帰できる状態にしてあったが多分無理でしょう。

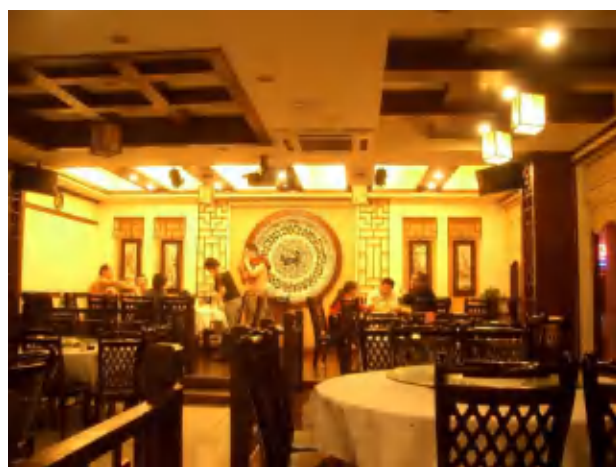


屋根付車庫？で火を落として休車の上游

ここでは撮影するものがないので町に戻り、国鉄を撮影することとした。リン川市街に大きな橋が架かっている。この川は璃江上流にあたり、水は比較的きれいである。河原では馬や鶏が放し飼いされ、草を食べている。また、川岸では女性が洗濯し、その横では子供達が水泳をしているといった光景である。列車は半時間に一本の割り合いで「東風」が通過する。川の南側には国鉄と鋼鉄廠を結ぶ線路が敷かれており、17:30ごろ東風が貨物を牽いて廠へと走っていった。国鉄線の東風牽引の貨物や客車を日没19:00まで撮影し、ホテルに帰った。

昼食が遅かったのでホテルで休憩し、夕食は21:00近くのレストランに入る。壁には1mの絵皿が掛けてあり、よく見ると犬が何十匹も描

かれている。レストランのサービス員に話を聞くとこのリン川は「狗肉」つまり犬肉が有名だそうである。このレストランも名物は犬肉。これには参った(>_<) 他の肉はと聞くと鶏肉があるとのこと。それにした。出てきた鶏は、足の指、鶏冠など広州料理によく出てくるアレだった。私はこれもダメ。スープとカボチャを食べビールで腹をふくらせた。



2F 中央に大きな皿が掛かっていた。

2007/5/3 リン川~桂林~桂林市内観光~柳州~広州

今日も天気は晴れ、少し雲が出てきたが暑さは真夏。もう撮影に行くところも無く、疲れも出て気力が湧かない。午前中の時間を利用し、桂林観光に出た。07:30ホテルを出て路線バスで桂林へ戻り、汽車総駅で13:10発柳州行きのバスの切符を購入。汽車総駅内にある「寄存処」でカメラバック、三脚、キャリーバックすべてを預け、カメラ1台を持って観光にでた。

タクシーで遊覧船乗り場へ。遊覧船は一人50元、1時間半の遊覧だ。切符を買うのに20分も待って、更に乗船には名簿順に乗るようになかなかうまくいかない。



リン川から桂林北駅まで走る路線バス



有名な岩、だが名前を忘れた。

璃江を遡り、Uターンして戻ってくる。11:30に下船、人力三輪タクシーで寺を見ることにした。しかし、人力のため寺に着いたが少し時間が足りなかったため汽車站に戻った。桂林13:10発直達バスで柳州へ、15:40柳州汽車客運總站到着。タクシーで柳州空港へ、着いたのが16:15。



柳州空港は初めてで、この空港は便数が少なく空港バスはないとのこと。タクシーだけのようだ。中に入ると時間も早かったので待合ロビーには売店の店員と職員の3人が椅子に掛けた話し中だった。中国らしからぬ状況に驚いてしまった。ガイドも柳州市内に戻ることができない。広州行 CZ3720 は 18:00 から搭乗手続きが開始した。ガイドをしてくれた鐘波さんにお礼をいって別れ、搭乗待合室へ。沈陽からの CZ が 18:20 到着。これが広州行きとなる。

18:50 搭乗。歩いて飛行機へそしてタラップを上がり機内に乗り込んだ。席は 10A、これが何とビジネスシートだった。幅広の席にゆったりと掛け柳州新聞を読む。ローカルな内容ばかりである。機はエアバス社製 A320 型、定刻 5 分前 19:05 離陸。20:05 広州に着陸、タラップを降りバスでゲートに戻る。ホテルに行くため国際線出口に向かう、国内線 B 区から通路を渡り、A 区へこれが 3F 1F B1F 1F と上がったたり下がったりで非常にややこしい。あちらこちらで聞きながら漸く A 区に到着。行くとき頼んだ「旅游指南」を発見。ホテルの予約票を見せると専用車が迎えに来た。ホテルは空港から 7 分、ホテルに入ったのが 21:00 だった。

チェックイン後、携帯電話が潰れて不便だったので次回を考え買いに行くことにした。ボーイに聞くと一緒に行ってくれるという。ホテル前の道路対面にいろいろな店がある。2軒ほど聞いたところ新品は 800 元以上。そこで「二手机」といって中古を買うことにした。ノキアの同じようなタイプが 450 元、値切ったが無理、老板に電話してもらい値切ったが無理、次回を考え少し高いが購入することにした。

ボーイとはここで別れ、夕食に面を食べた。日本人が珍しいのか少しガラの悪そうな店の従

業員が入れ替わりでいろいろと質問に来る。チョットうざかったのでこちらから質問をして出身地やら年やら聞いてみた。茶髪に染めた若者は新疆から出稼ぎにきているという、次回新疆に行くなら俺が案内しようかといっていた。面を早々に食べホテルに帰った。

2007/5/4 広州～関空

天気は曇りで07:00空港へ専用バスで出発。バスは高速を使わなかったので空港それも国内線側に7:30着、



国際線搭乗ゲート A9

急いでA区に向かい、Gカウンターでチェックイン、ボディチェック、出国審査、を通り搭乗ゲートへ。



搭乗ゲート横売店に売っていた西遊記を模した将棋

搭乗ゲート待合横売店を覗くと中国将棋セットが販売されていた。いろいろなものがあったが、目を惹いたのが西遊記の登場人物を模した駒が並んだもので王さんは三蔵法師。相手は火焰山の魔王?だった。

09:20 定刻広州離陸、すでに天気は雨。14:20 関空着陸、天気は曇り。久振りの中国に満足して帰った。願わくばもう一度、あの山の間を走る蒸機を撮影したい。あと半年、チャンスはあるかな・・・

地図資料：寝台軟様ご教示

太陽村魚峰水泥廠周辺

<http://map.sogou.com/new/#c=12134500,2822000,10>

来賓市鳳凰駅周辺

<http://map.sogou.com/new/#c=12170500,2730750,10>

旅行記 Top

<http://rose.zero.ad.jp/agura/chinese/sanluo/guangxi2007trip2.htm>

中国鉄路 Top

http://rose.zero.ad.jp/agura/chinese/CN_railways_index.htm